

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1190200376		
法人名	株式会社 トゥルーケア		
事業所名	グループホームなのはな		
所在地	埼玉県川口市安行吉蔵271-1		
自己評価作成日	平成27年1月15日	評価結果市町村受理日	平成27年4月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiyokensaku.jp/11/index.php">http://www.kaiyokensaku.jp/11/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成27年2月18日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の行事内容を充実させ、スイーツレクや納涼祭、芋煮会等を盛り込み、楽しみのあるアットホームなグループホームです。</li> <li>・利用者様一人ひとりに担当職員が付き、中心となり日々の介護にあっている。各職員がその方を知る事で介護に対する意識が向上している。</li> </ul>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホーム長が交替し、事業所内に新しい風が吹き、これまでの良いところはそのままに、事業所の環境整備や地域との結びつきの強化に取り組み、利用者へのサービスの向上に反映されている。さらに同一法人内のサービスとの協力体制作りにも努められ、イベントや合同避難訓練を一緒に実施することで、相互のメリットを活かした取り組みが行われている。</li> <li>・ご家族のアンケートでも、「みなさんテキパキされていて、とても感謝しております」、「本人の健康不良時、適切に医療機関に相談してくれているのがうかがえる良い点と思う」などのコメントが寄せられ、職員の対応の早さと安心感に高い評価が得られている。</li> <li>・目標達成計画の達成状況については、運営推進会議に「夢ワーク」実習の中学生が会議に参加し、意見をいただくなどの工夫を図り、開催回数の確保に取り組みされたこと、また、事業所の避難訓練に運営推進会議のメンバーが参加され、外部との協力体制作りが進められたことから、目標が達成されている。</li> </ul>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者の</li> <li>2. 利用者の2/3くらいの</li> <li>3. 利用者の1/3くらいの</li> <li>4. ほとんど掴んでいない</li> </ol>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族と</li> <li>2. 家族の2/3くらいと</li> <li>3. 家族の1/3くらいと</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ol>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎日ある</li> <li>2. 数日に1回程度ある</li> <li>3. たまにある</li> <li>4. ほとんどない</li> </ol>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ毎日のように</li> <li>2. 数日に1回程度</li> <li>3. たまに</li> <li>4. ほとんどない</li> </ol>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大いに増えている</li> <li>2. 少しずつ増えている</li> <li>3. あまり増えていない</li> <li>4. 全くない</li> </ol>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての職員が</li> <li>2. 職員の2/3くらいが</li> <li>3. 職員の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族等が</li> <li>2. 家族等の2/3くらいが</li> <li>3. 家族等の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ol>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を全職員が共有・理解し、理念に沿った介護サービスの提供に努めている。	理念に基づいた穏やかでゆったりした雰囲気が事業所内で共有されている。理念を飾りにせず、現場で活かされるよう取り組まれ、利用者のペースに合わせて一緒に家事を行うなどのケアが実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、町内盆踊りに参加、子供神輿への協力を行っている。運営推進会議に町会長や地域の方々の参加がある。	町内の盆踊りには毎年参加し、子供神輿の休憩所としての協力など、地域からも理解され、受け入れられている。また、中学生の「夢ワーク」を受け入れ、利用者と生徒たちとの交流に取り組まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事への参加などを通して、地域の方々の理解をいただいていると思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実情・取り組み等の報告や話し合いを行い、ご意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、災害発生時、地域の高齢者にどのような支援ができるかなど、身近な話題での話し合いが行われている。また、「夢ワーク」で来所されている中学生やその先生が参加され、新鮮な目を通した意見を発言していただいている。	運営推進会議を通して、利用者のサービス向上につなげるために、家族の意見や考えを取り入れたいとの意向から、イベント開催と併用し、会議への参加を呼びかけるなどの工夫が図られることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とは日頃から連絡を取り、事業者の実情等を伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市担当者とは常に相談・報告がなされ、連携、協力が図られている。また、市内の事業者連絡会に参加したり、市主催の研修には、職員の力量に合わせて受講するよう努められている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の対象となる行為を理解し、利用者にとって生活の場・安らげる場の提供に取り組んでいる。	身体拘束についての基本的な勉強会を実施し、「これも拘束にあたる」など、職員間での再認識が行われている。利用者への馴れ馴れしい言葉などは、「他から見たらどうなのか」の観点から注意をされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の使い方によって、心理的虐待を起す要因になると思う。定期的に再学習し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者がいるが、制度を理解する為にも研修に参加したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約に関しては、管理者が行っている。利用者や家族等には十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各フロア入口に意見箱を設置しているが、あまり活用はされていない。面会の際等、意見・要望を聴き、運営に反映している。	管理者は自分を家族に覚えてもらえるよう、面会時には必ずお会いし、意見・要望をお聴きしている。リハビリへの要望、金銭面での相談など、どんなことでも話を伺い、会議やミーティングにも図られ、職員への周知とサービスの改善に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスで職員の意見や改善案を聞き、話し合った結果を業務に反映している。	清掃のやり方や時間帯、利用者の参加・役割など、様々な意見や考えが職員から出され、話し合いがなされている。また、管理者がフロアカンファレンスに出席し、各担当者の意見を聴き、その場で決定するなど、タイムロスを減らすよう取り組まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	取得資格や役職に応じ手当がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内・外の研修に参加する機会を確保し、知識・技術向上を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会などで交流会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の話しはしっかりと傾聴し、常に状況把握に努め、利用者が安心できる対応を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問い合わせの段階から、家族等が困っている事、不安な事等を聴きながら、その方に必要なサービス提供ができ、良い関係を築く事ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族等との面談や関係機関からの情報をもとに、その時必要なサービスを中心に支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりのペースに合わせ、楽しく生活できるように信頼関係を築きながら職員も力を合わせ支援にあたっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2か月に一度「なのはなだより」を送り、体調・生活状況等を伝えている。面会・外出の機会を調整し、良い関係作りに努めているが、疎遠の家族もいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	すべての希望を叶える事ができればよいが、できない事もある。	来訪者には、利用者の現状を理解いただき、関係の継続をお願いするなどの取り組みがなされている。また、馴染みの店への買い物やお墓参り、法事などにも、家族の協力のもと、出かけられるよう支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格も違う為、折り合わない事もあるが、職員が中に入り、良好な関係が保てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設長・ケアマネージャーが、情報提供・連携を行い、その都度対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーション技術を活かし、気軽に話ができる雰囲気を作っている。	明るい挨拶や目線を合わせた会話、新聞やテレビの話題などから、利用者が口を開きやすい雰囲気作りに努められ、思いや意向の把握に取り組まれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者情報を参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の1日の生活状況を把握し、生活記録へ記入。毎日が同じリズムでない事もある為、日々、状況を把握し対応を変えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現時点でできる事・できない事を把握し、又、新たな気づきがあった際は、カンファレンスで意見を出し現状に即した介護計画を作成している。又、居室担当者を決め、モニタリングを行い意識向上に努めている。	介護計画作成時には、検討したい重点項目を取り上げ、カンファレンスが行われ、作成されたケアプランは職員の確認がなされ、内容の周知が図られている。家族とはケアプランの説明と同意確認が丁寧に行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに連動した記録を行い、申し送りをしている。しかし申し送りが不十分な事がある為、対応に困る事がある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状、職員の都合が優先になっている事があり、利用者が納得いくような支援になっていない場合がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年、中学生の職場体験「夢ワーク」での交流やパン工場見学、町内会納涼祭など地域の中で楽しむ事ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの利用者が、往診医を利用しているが、本人・家族の希望に応じ、かかりつけ医の受診を行っている。必要な情報を提供し、連携を取りながら支援している。	日常の健康管理は往診医にお願いされている。特に、急変時には外来を受診したり、これまでのかかりつけ医に通院支援が行われている。医師からの指示は「往診記録」と申し送りノートに記載され、職員に周知されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に2回看護師の訪問があり、体調面や気づきを相談でき、安心できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設長・ケアマネージャーが、医療関係者と情報交換や相談を行い、安心して治療できるように、又、早期に退院ができるように良い関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設長・ケアマネージャーが行っている。事業所でできる事を十分に説明し、話し合いながら方針を共有しながら支援している。	重度化や終末期に際しては、常に「自事業所ができることは何か」を明確にし、家族とも話し合い、情報の共有が図られている。また、病院の医療相談室と連携して、情報の提供を受けるなど、今後予想される重度化への症状などの対応が検討されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各フロアに緊急時・事故発生時の対応マニュアルがある。実践で身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と連携し、定期的に消防訓練を実施し、改善点がある時は全職員に周知徹底している。運営推進会議等で地域の方と話し合いを行っている。	年2回の消防避難訓練が実施され、運営推進会議の参加者が参加され、避難方法や経路、非常用設備の使い方などの確認が行われている。また、併設のデイサービスとの合同訓練が行われ、備蓄や職員連絡網なども整えられている。	災害時には、地域住民の協力者の確保が必要と想定されることから、運営推進会議の参加者を通して、合同訓練への参加を呼びかける取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、話しかけや対応には、自尊心を傷つけないよう十分配慮している。	「親しき仲にも礼儀あり」を基本に、入室の際の声かけとノックなど、プライバシー確保への対応がなされている。また、着るものの自己選択、髪のパラッシング、髭剃りなどにも気を配り、利用者一人ひとりの人格を尊重した取り組みが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望表出時、できる事とできない事があるので、コミュニケーションを取りながら進めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先しがちになってしまうが、一日の大まかな予定以外の時間は、一人ひとりのペースを大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、一人ひとりの力に合わせ、整容の支援を行っている。髪等乱れがある時は、その都度声かけ・介助を行っている。2ヶ月に一度、訪問理美容がある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き、お盆・食器拭きなどを分担、又は協力して行っている。	利用者に合わせて食事形態や好き嫌い、味付けの工夫などが行われている。材料を調達して恵方巻き作りをしたり、クリスマスには職員手作りのオードブルが出されるなど、季節感のある食事を楽まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を把握・記録し、食事量が少ない時は、形態の見直しや水分量が少ない時は、好みの飲みの提供・ストローを使用するなどの支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの力に応じた口腔ケアを行っている。1週間に一度、訪問歯科がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、羞恥心や本人が気がつくよう考慮しながら、声かけの工夫をし排泄支援を行っている。	タイミングを計り、何かの行動のついでにトイレ誘導の声かけをするなど、周囲への気遣いと利用者の羞恥心への配慮に努められている。夜間でもトイレでの排泄をされる利用者が多く、失敗されても大騒ぎせず、さりげない対応に心がけられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操への参加声掛けや水分量が進まない時は、好みの飲物の提供等予防に努めている。二・三日便秘の方には、担当医師指示により、負担のかからない量を調整し下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	三日に一度は、入浴を行っている。個々の体調に合わせ、無理のないよう過剰介護をせず、ご自身でできる事は行ってもらう。	見守り中心や職員二人対応での移乗など、利用者に合わせて入浴支援に取り組まれている。浴室と脱衣所や廊下の温度差にも気を配り、ヒーターを入れたり、湯張りの時に浴室ドアを開放するなどの工夫が図られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のパターンを把握し、その都度柔軟な対応を行っている。空調や明るさ、音など環境に考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を全職員把握に努め、服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者各々に合った手伝いやレクリエーションを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調に応じて、天候の良い日に周辺の散歩を行っている。お花見や盆踊り、初詣等にも出かけている。	利用者楽しんでいただける外出に心がけられ、馴染みのパン屋に出かけ、コーヒータ임을過ごされたり、初もうでに近くの神社に行くなどの支援がなされている。また、駐車場にベンチを並べて、外気浴をしていただくなどの取り組みも行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関しては、ホームが責任を持ち管理をしている。自立度の高い利用者は、本人の希望に応じ買物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内に自由に電話をできる場所がない為、その都度、利用者の希望に応じ電話支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物を置いたり、季節にあった飾り付けや行事毎の写真を展示している。	共用空間は利用者の「生活の場」と認識され、使い勝手や歩行の安全面などへの気配りがなされている。観葉植物を眺めたり、仲間同士で編み物をされる利用者もおられ、自由な居心地の良い共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル・ソファ、畳スペースなどあり、思い思いの過ごし方ができるよう環境整備に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や写真などを置き、家族や本人の希望も考慮した心地の良い空間を作るよう努めている。	冷蔵庫を持ち込まれたり、洗濯物が干されるなど、生活感のある居室作りがなされている。ベッド、布団などは生活習慣に応じて、どちらでも対応ができ、週1回、居室で晩酌を楽しまれる利用者もおられるなど、自由な生活環境が整えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事故のないよう日々注意を払い、支援の妨げになる物などを置かず、配置等にも工夫している。		

(別紙4(2))

## 目標達成計画

事業所名:グループホームなのはな

作成日:平成27年4月10日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議を通して、利用者のサービス向上につなげるために、家族の意見や考えを取り入れたいとの意向から、イベント開催と併用し、会議への参加を呼びかけるなどの工夫が図られることに期待したい。	運営推進会議に多数の家族に参加していただき、そこでの意見や考えをサービス向上に活かす。	土・日・祭日にイベントを開催。開催と併用し、運営推進会議を行い家族に会議の参加を呼びかける。	12ヶ月
2	35	災害時には、地域住民の協力者の確保が必要と想定されることから、運営推進会議の参加者を通して、合同訓練への参加を呼びかける取り組みに期待したい。	グループホーム内で行う防災訓練に地域住民の方に参加していただき、又、町内会で行う防災訓練に職員が参加し、日頃より地域との協力体制を築いていく。	運営推進会議の参加者に防災訓練の日程を知らせ、参加を呼びかける。町会防災関係者や民生委員に防災訓練お知らせを配布する。又、町内会で行う防災訓練に参加する。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。